



「あしたの畑」2025年春期開催決定！ 2025年3月1日(土)より、間人の4つのアートサイトを16日間限定で公開



NPO法人TOMORROW(理事長徳田佳世／副理事長徳山豊、西沢立衛／理事中田英寿)が主催する「あしたの畑」の2025年春期の公開が決定しました。2025年3月1日(土)～3月16日(日)の16日間、京都府京丹後市間人(たいざ)地区の4つのアートサイトを期間限定で公開いたします。

「あしたの畑」は、食とアートを通して人が集まるきっかけと学ぶ場を生み出し、土地が持つ自然の財産に気付く機会を提供していく集落構想プロジェクト。京都市内と京丹後市間人地区を拠点に、500年後の人々の誇りとなる遺産を生み出せるよう、アート・工芸・建築・食の分野から集落環境を提案する活動を行っています。

2020年から間人地区で活動を開始し、古民家や織物工場を改修したスタジオやギャラリーなど、これまでに4つの場を生み出しました。改修には、土壁や襖紙に間人の土を使用するなど、この土地ならではのサイトスペシフィックな建築空間を創出しています。通常、各施設は非公開ですが、年に2回の公開期間には国内外のアーティストの作品を展示し、一般の方にもご覧いただいております。

2025年春期公開では、〈間人レジデンス〉の新たな部屋をお披露目。また、2020年から改修を続けている〈間人スタジオ〉では、ドイツの建築家 アンナ・ヘリンガーによるドローイングと模型を展示いたします。

今回から、スタッフによるツアー制でご鑑賞いただけます。チケット予約は公式サイトで受付中。

※宮のあしたの畑は常時自由鑑賞可

OVERVIEW

イベント名	あしたの畑 2025春期
会期	2025年3月1日(土) - 2025年3月16日(日) 11:00-17:00 最終入場 16:00 ※火・水曜 休み
会場	間人スタジオ、SEI TAIZA、間人レジデンス、宮のあしたの畑
鑑賞料	1,000円(全会場共通) 1時間ごとのツアー制／要事前申し込み ※〈宮のあしたの畑〉の作品は無料
主催	NPO法人TOMORROW、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
委託	令和6年度日本博2.0事業(委託型)
公式ウェブサイト	https://tomorrow-jp.org/program/2025spring/
オンラインチケット購入	https://checkout.square.site/merchant/ML2NV20MQCFA4/checkout/FKHVAAXX7H3SMWPGBZHYPBVO



CREATORS

Anna Heringer(建築家)、Martin Rauch(陶芸家)、開化堂、嘉戸浩(唐紙作家)、楠修二(料理人)、佐藤聡(ガラス作家)、中川周士(木工作家)、新里明士(陶磁器作家)、野口里佳(写真家)、AAWAA(現代美術家)、Ken Gun Min(現代美術家)、Sangho Noh(現代美術家)

間人スタジオ

サステナブルな生活の空間を、土地の工法、素材と現代の思考、技法で、今とこれからの居住空間を作り上げる実験的な家屋。木工職人 中川周士による「木の部屋」など、建築と工芸を結ぶ新たな試みを行っています。



間人スタジオ 2020年～



杉本博司「あしたの煙」ロゴ、2021年



中川周士「机」2021年、吉野の檜



中川周士「木の部屋」2022年



開化堂「雨樋」2024年

かみ添・いとをかし「紙の部屋」2024年

柿沼康二 張り紙「あしたの煙」2021年、中川周士・楠修二「へしこ桶」2024年

佐藤聡・楠修二「海老の醬」2024年

SEI TAIZA

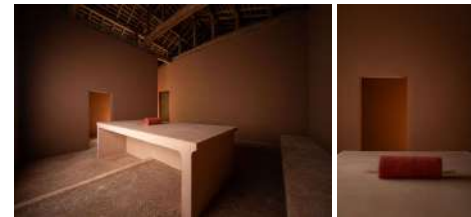
築60年の丹後ちりめん工場として使われていた建物を、織物の新たな可能性を探る間人初のアートギャラリーとして再活用しています。



SEI TAIZA



Ken Gun Min
「about me living from your last breath」
2024年、SEI TAIZA



間人レジデンス 2024年

間人レジデンス

間人レジデンスは、自然の素材を最大限に活かしながら、現代の建築を感じるアートハウスであり、居住空間の提案です。

宮のあしたの畑 / Field of Stars

竹野神社前に位置する〈宮のあしたの畑〉。リジェネラティブなアート、工芸、建築作品の創造の場となる常設作品「Field of Stars」、建築家 西沢立衛による最小建築「納屋」、陶磁器作家 新里明士と加藤貴也による「あしたの畑窯」を展示します。



「Field of Stars」
2023年



新里明士・加藤貴也「料理と陶芸の窯」
2022年



「納屋」監修:西沢立衛建築設計事務所
2022年



TAIZA AREA

間人スタジオ | 京丹後市丹後町間人2854

SEI TAIZA | 京丹後市丹後町間人3329

間人レジデンス | 京丹後市丹後町間人3332-2

宮のあしたの畑/Field of Stars | 京丹後市丹後町宮249

※間人スタジオ、SEI TAIZA、間人レジデンスはイベント会期中のみ公開

「あしたの畑 2024 記録集」を数量限定で発売（2025年2月14日発行予定）

あしたの畑の2024年の取り組みをまとめた全56ページ（和英）の記録集を、50冊限定で販売します。今年度は、ともに学び語るひとときを共有する『SEI-kitchen』や子ども料理教室の開催のほか、間人地区に新たに〈SEI TAIZA〉と〈間人レジデンス〉が誕生しました。記録集は12月18日（水）からオンラインストアで予約開始。2025年度、弊団体にご寄付いただいた方へもお届けいたします。（国内郵送：寄付1万円以上で1部、海外郵送：寄付2万円以上で1部）



あしたの畑2024記録集

価格（税込）	国内郵送：1冊につき2,500円 海外郵送：1冊につき3,500円
発行日	2025年2月14日（予定）
発行部数	限定50冊
ページ数	56ページ（和英）
販売期間	2025年2月14日～3月16日
購入方法	12月18日（水）よりオンラインストアにて予約開始 https://tomorrowfield.stores.jp/ *販売期間後は非売本となります

テキスト：平田晃久、藤原辰史 など
デザイン：窪田新
写真：野口里佳、Kim Ilda など
図版：Sangho Nohドローイングなど



Sangho Noh「間人」2024年
SEI TAIZA



Ken Gun Min
「about me living from your last breath」
2024年、SEI TAIZA



SEI-kitchen vol.7
「サステナブル・ファッションと海のお菓子」



間人子ども料理教室
「あしたの台所ー発酵」

美術批評誌「APOLLO」のいま注目すべき「40歳以下の40人」のリストに、「あしたの畑」プロジェクトマネージャー、建築家の橋詰隼弥が選出されました

「あしたの畑」プロジェクトマネージャーであり建築家の橋詰隼弥が、美術批評誌「APOLLO」が毎年発表するいま注目すべき「40歳以下の40人」のリストに選出されました。

APOLLO Art Magazineは、1925年にイギリスで創刊され、長い歴史を持つ美術批評誌です。このリストはテーマを特定して、影響力のある40歳以下の人物リストをまとめています。2024年のテーマはCraft。現在と今後の文化芸術界を先導するキーパーソンを知ることができるリストです。橋詰は、「あしたの畑」における工芸・建築と環境における活動が評価されました。



NPO法人 TOMORROW / あしたの畑



NPO法人TOMORROWは、芸術文化活動を核とする非営利団体。

「感動すること」を最上位の価値として定め、芸術文化活動を通し、豊かな心を育み、平和な国際社会を築く一因となることを目的とします。

2020年より京都北部の京丹後市間人地区にて開始した活動「あしたの畑」は、国内外で活躍するアート（建築・工芸などの表現を含む）と食のプロフェッショナルたちが、分野を超え、都市部では得られない地域の立場から、未来に引き継ぎたい日本の美しい景色を文化芸術的アプローチによって創造していくことを目指します。

Website

<https://tomorrow-jp.org/tomorrow/>

Instagram

[@tomorrow_field](https://www.instagram.com/tomorrow_field)